

(第2号様式)

豊見城第 1830 号
令和6年 3月21日

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立豊見城高等学校
校長 眞榮田 義光
(公印省略)

令和5年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和5年12月12日付け教県第1744号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

回数	日時	場所	出席状況
第1回	令和5年7月14日 16:00~17:00	本校小会議室	評議員3名出席
第2回	令和5年12月19日 15:10~16:30	本校小会議室	評議員3名出席
第3回	令和6年3月19日 16:00~17:00	本校小会議室	評議員3名出席

2 学校評議員に求めた事項

○3名の評議員へ、本校の学校運営等に関する質疑や意見、要望、助言を求める。○学識経験者として、元県立学校長及び県内大学業務に携わった経験・立場から、現在の高校教育の現状等について、課題及びその解決への提言を求める。○本校元PTA会長、福祉事務行政事務に携わる視点から、本校に対する期待などの提言を求める。○地域住民・同窓生代表として、本校近隣に在住し、社会福祉士、精神保健福祉士としても活躍する視点から、これまでの経験を踏まえた提言を求める。

3 学校評議員の意見

○前年度の進路決定率の高さからみても、あらゆる場面で、生徒のライフプランにつなげる指導を意識していくことが大切になる。部活動の活性化も進路指導につながる。○授業参観の様子から、ICT活用による効果的な授業が行われていることを確認した。評議員が在学した数十年前は授業中に寝ている生徒はいなかった。○進学の良いのは指導の賜物であり感謝している。○体育祭では生徒の表情が生き生きとしていた。○生活困窮世帯の存在を意識して、学校として何ができるか模索してほしい。○教職員の尽力を感じる。働き方改革を意識してほしい。

4 学校運営に反映した事項

○評議員の授業参観、行事への参加による感想・称賛等が、本校の職員の励みになった。○学校全体が各種行事に力を入れていることの意義を再確認することができた。○地域から注目を集める地域の拠点校であることの責務を再確認することができた。

5 課題その他

○ICTの活用、生徒の主体性に主眼をおいた教育活動等のさらなる推進 ○進路決定後の出席状況の悪化等、勤怠状況の是正 ○学校と福祉の連携、学校と社会のつながりの再確認 ○時代の変化に対応するための柔軟さの共有 ○教職員の負担を踏まえた上での学校の活性化